

1 持続可能な社会推進委員会・アカデミー委員会

2 担当副理事長方針

3
4 菱田 高志

5
6 近年の地球規模の気候変動、自然災害といった環境問題、また、貧困、格差、保健等の
7 社会問題により、世界的に持続的な発展に関する危機意識が高まり、これまでの利益至上
8 主義の時代から、環境や未来を見据えた持続可能な社会の創造に向けた時代へとシフトし
9 ています。その取り組みとして、地球規模のあらゆる課題の解決方法として、2015年
10 に国連で国際社会の共通目標としてSDGsが採決されました。中津川市においても、「中
11 津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で、「かがやく人々 やすらげる自然 活
12 気あふれる 中津川」の未来都市をイメージしており、SDGsを活用したまちづくりが
13 進められています。しかし現状、少子高齢化、人口流出による働き手不足が予測され、地
14 域経済の縮小や医療や子育て環境の悪化等市民の生活が不安視されています。このような
15 課題に対して、行政だけに任せるのではなく、今後各々の企業を中心となる我々が企業経
16 営の視点から、環境や社会のことも考え、活力あふれる中津川を創造することが必要だと
17 考えます。活力ある中津川を創造するには、我々がSDGsを効果的に活用できるように
18 正しく理解し、今からできることや新たな取り組みとしての中期的な考えをもち自社で実
19 践し、企業の成長に繋げ、持続可能な企業となる必要があります。また、企業価値を高め
20 ためにも、SDGsの取り組みを「見える化」して、我々が行政と共に発信していくこと
21 で、その企業で働く人の共感や新たなビジネスチャンスにもつながります。そして、企業
22 のSDGsを発信し、市民に経済、環境、社会、の視点からまちづくりを考えていただく
23 ことで、持続的な中津川の発展に繋がると考えます。

24
25 青年会議所は仲間と共に共通の目的を持って、運動を起こす中で、仲間と共に自身を磨
26 き、成長できる団体です。本年度入会のメンバーには、青年会議所活動・運動の中で、得
27 られる経験の中で意義を見いだしていただきたい。そのためには積極的に事業や例会に参
28 加し、そこで得た経験を、まずは自分たちの担う事業に取り入れ実践していただきたいと
29 考えます。そして、アカデミー委員会メンバーが次代を担う主人公として成長していくた
30 めの1年としていただけるよう努めてまいります。

31
32 私は副理事長として、中津川青年会議所に所属しているメンバー一人ひとりがより輝く
33 ために、何事にも目的を持って挑戦し、成長の機会を与えてまいります。そのために自身
34 の立場を忘れず、メリハリをもって接するよう努めてまいります。

35

36 <持続可能な社会推進委員会>

37 メンバーにはSDGsを用い、自社の企業価値を高めていただきたい。また、行政と共
38 に、中津川の企業を発信することで、中津川の企業の価値を市民に知っていただけるよう
39 な事業展開を行っていただきたい。

40

41 <アカデミー委員会>

42 中津川青年会議所への理解を深め、目的を持って、率先して行動できる人財となってい
43 たきたい。